

J R 総連通信

2022年2月4日 No.1502

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

JR総連推薦議員懇談会・共同代表

立憲民主党・末松義規衆議院議員

衆議院「財務金融委員会」で質疑をおこなう！

2月4日(金)、衆議院財務金融委員会がおこなわれ、JR総連推薦議員懇談会共同代表であり、財務金融委員会筆頭理事・衆議院議員・末松義規氏が質疑に立ちました。

末松氏は、40分の質疑時間のなかで国民目線による質問をおこない、「超富裕層や超大企業が優遇される税制に対する是正」や「高騰するガソリン価格の値下げ対策」など、多岐に渡る質問を財務大臣等におこないました。末松氏は、「アベノミクスにより富裕層や大企業のみが恩恵を受け、中小企業やそこに働く労働者との格差はより一層広がった。優遇税制を転換しなくては、益々格差はさらに広がるばかりだ」と訴えました。



また、先の定期中央委員会でも燃料費高騰などによる物価上昇は、組合員の生活を圧迫し、2022 春闘における賃上げは必至であると方針を確立したばかりですが、そうした私たちの生活に直結する生活実感を末松氏は、「ガソリン価格の値下げ対策」として訴えてくれました。具体的には、トリガー条項を発動して、揮発油税として上乗せ課税されている1ℓあたりおよそ25円の課税を一時的に停止して、170円台のガソリン価格を引き下げるべきだ」と質問しました。しかし、答弁では、1ℓにつき5円を上限に石油元売りに対して支給している制度を継続するとし、これにより1ℓあたり2.5円ほどの効果が出ているとおおよそ生活実感とはかけ離れた答弁となりました。末松氏は、「全く国民目線の回答になっていない。25円を凍結して140円台にすべきだ」と私たちの目線にあわせた主張を繰り返してくれました。

また、先の定期中央委員会でも燃料費高騰などによる物価上昇は、組合員の生活を圧迫し、2022 春闘における賃上げは必至であると方針を確立したばかりですが、そうした私たちの生活に直結する生活実感を末松氏は、「ガソリン価格の値下げ対策」として訴えてくれました。具体的には、トリガー条項を発動して、揮発油税として上乗せ課税されている1ℓあたりおよそ25円の課税を一時的に停止して、170円台のガソリン価格を引き下げるべきだ」と質問しました。しかし、答弁では、1ℓにつき5円を上限に石油元売りに対して支給している制度を継続するとし、これにより1ℓあたり2.5円ほどの効果が出ているとおおよそ生活実感とはかけ離れた答弁となりました。末松氏は、「全く国民目線の回答になっていない。25円を凍結して140円台にすべきだ」と私たちの目線にあわせた主張を繰り返してくれました。

JR総連はこれからもJR総連推薦議員懇談会と連携をはかり、組合員の生活実感・労働実感を訴えていきます。